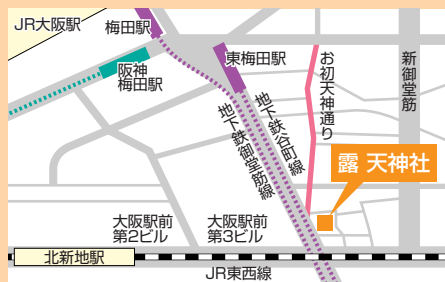


第10回

 大阪市北区曾根崎二丁目
 つゆノてん じん じゃ
露天神社（お初天神）


行き交う人でにぎわう梅田の曾根崎お初天神通り。高いビルにはさまれて“お初天神露天神社”の石柱が見える。この北門をくぐって進むと、意外と広々とした境内がある。ここ

たという時代背景がある。やがて、近代になって、政府は身分に関わりなく結婚できることにした。今の憲法では、結婚は「両性の合意のみに基づいて成立」とされ、そこには結婚差別があつては



が『曾根崎心中』の舞台である。

1703（元禄16）年4月7日、この神社の「天神の森」で、堂島新地天満屋の遊女・お初と、内本町平野屋の手代・徳兵衛が心中する事件がおこった。この事件をもとに、近松門左衛門が『曾根崎心中』を著し、竹本座が人形浄瑠璃として上演。お初と徳兵衛の純粋な恋心や葛藤が共感を呼び、大評判になった。

『曾根崎心中』では、平野屋の主人が持参金を渡して、徳兵衛を姪と結婚させようとする。その持参金を返そうとした徳兵衛は、友人にそれをだましとられてしまう。持参金も返せず、主人の意向にも反した徳兵衛は、生きていく方法を失なう。お初は徳兵衛に死ぬ覚悟を確かめた。「此の世の名残、夜も名残、」の調子に乗って、お初と徳兵衛は曾根崎の天神の森にたどりつく。

当時は身分社会で、同じ身分どうしでないと結婚できない。しかも、親や奉公先の主人の命令には絶対に従わなければならなかつた

ならないという意味がこめられている。そして昨今、結婚にはもっとさまざまな形があることが主張され始めた。

一方で、家柄や親の都合、世間体の意識などで結婚の相手を選べる。それで二人の仲が引き裂かれ、自殺等に追い込まれる結婚差別が、いまなお絶えない。

「取伝え、貴賤群集の回向（えこう）の種、未来成仏疑ひなき、恋の、手本となりけり」で『曾根崎心中』は幕を降ろす。「お初徳兵衛ゆかりの碑」の横には、2004年4月7日に「お初・徳兵衛の像」が建てられた（写真）。あの心中事件から300年。いつの世も、自由に恋愛し、結婚するのは人間の願いのはず。本当に時代は変わったのか。自由な恋愛を求めたお初と徳兵衛は、社前で手を合わすカップルたちを、どのように見つめているのだろうか。

編集後記

■編集に携わり、2回目。早くも生みの苦しみを味わっているところである。今回も取材で色々な話をお聞かせいただき、勉強になった。この恩をどうやってお返しすればいいのかと考える。この冊子を多くの方に読んでもらうことで返しができるか…。(T)

■差別調査は、人の未来の芽を摘む。それだけでなく、その事実は、調査対象とされた人々の中で内面化され、希望を信じる力を奪う。今号では、差別撤廃にむけ、1歩ずつ確かな歩み続ける人たちに会い、カづけられた。誰もが可能性を信じられる社会であってほしいと切に願う。(M)

わたしのきらいなもの

守口市 小学二年生(当時) 上村 真理子

わたしのきらいなもの

それは、こそこそ話

だつてなんだかいやなかんじ

言いたいことあればはっきり言えばいいじゃない

そして自分でも言われたくないことは言わないで

みんな楽しくいたいんだから

みんななかよくいたいんだから

 2004年度人権啓発詩読書感想文募集事業
 (大阪府・大阪府教育委員会・愛ネット大阪・(財)大阪府人権協会の入選作品より)

2005(平成17)年9月発行

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

発行／大阪府企画調整部人権室

編集／財団法人大阪府人権協会

 〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
 TEL.06-6941-0351 FAX.06-6944-6616
 http://www.pref.osaka.jp/jinken/

 〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12
 TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985
 http://www.jinken-osaka.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています
「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、様々な偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」することと、豊かな人権文化を「創造」することが必要です。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように一そんな思いが込められています。